

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

全国から雪の便り、近場のスキー場でスキーを楽しめるためか、国内スキー客の入りが少ないとの情報。特に民宿や国道沿線のコンビニ店や土産

関係者には大きな影響が心配されている。また若者の車離れの影響が原因なのかと心配されるほど車両の通過台数も寂しい限りだ。

地域を担ってきた鉄道も心配だ。JR信濃森上駅は、12月中旬から3月中旬まで、跨線橋をネットにより使用禁止とした。これまで南小谷駅方面の番線とされていた西側に位置する2番線の除雪を中止したからだ。信濃森上駅の最盛期には、首都圏向け特急始発駅となり、切符を手に入れようとする乗客が早くから並び、駅前から長蛇の列を作ったものだ。昭和7年に開通して

貨物の取り扱い廃止、簡易委託駅から無人駅に、3番線の線路が剥がされ、今回の事態に。乗降客が極端に少ないためか1番線のみのもので問題が起きないこと自体に、一層の寂

## 身近に起きる物事に、地域の将来を考える習慣を持つべきだ

たのか無人化の話題は聞かなくてなくなつた。しかし白馬高校の選んだ道は、寄宿舎確保による活性化策が展開された。また現在では、観光客を含めた村民対象のバス運行の話

しさが込み上げてくる。大糸線は数年前、白馬駅を無人化するのではこの噂が飛び交った。県立白馬高校の活性化の話題もあり、白馬駅を利用する高校生の利用増の期待もあっ

運行本数が限られ、首都圏からの特急の入線も難しくなると予想される。将来、大糸線が存続するためには、白馬エリアで1駅のみと条件が付けられたのなら、白馬の玄関口は白

題も活発になってきている。現在大勢が利用する白馬中学生がバス利用となつたらと考えるだけで恐ろしくなる。現在の、相対式ホーム2面2線での運行の撤退が続けば、1日の

馬駅だと言いつつ切れるだろうか。地理的条件から言えば、北には、松川鉄橋。南には大樋鉄橋、平川鉄橋に挟まれ運行速度が制限される位置にある白馬駅。現在検討されている道の駅が、仮

に飯森駅周辺に整備されれば、経済的には全国に稀な「駅と道の駅」が合同するエリアが誕生する。そのエリアか

ら、魅力ある展開を主張する関係者も登場するだろう。そんな笑話はないと言いつつ、超高齢化と少子化がもたらす社会が、足音を立て近づいてきている。地域住民一人ひとりが、自らの問題だと声を上げてほしいと願っている。



除雪されない2番線何時の日か線路そのものが剥がされてしまうのだろうか  
高年齢化と少子化がもたらす社会が、足音を立て近づいてきている。地域住民一人ひとりが、自らの問題だと声を上げてほしいと願っている。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)